

第7回マイケル・ノーベル・サステナビリティ・テクノロジー・シンポジウム 開催報告

日時：2018年11月21日

場所：東工大蔵前会館3階手島精一記念会議室

テーマ：持続可能な社会に貢献する電気自動車と電池

近年、欧州や中国を中心に自動車業界が電気自動車にシフトしようとしている。彼らの思惑通りに事が進展すれば、近い将来に業態が大きく変わると思われる。このような状況を鑑みて、今回のシンポジウムでは電気自動車の将来と最新の電池技術である全固体リチウムイオン電池を含む電池技術について討論した。

ノーベル博士が来日する飛行機の事情で間に合わなかったため、最初に主催者を代表して加藤 TeFFA 理事長がノーベル博士からのメッセージを代読した。

インドから参加した Kumar Kaura 氏が急遽、インドの産業化の現状を報告し、日本からの技術協力への期待を述べた。

名古屋大学の佐藤登客員教授が「自動車の電動化シフトと電池技術の動向」について講演した。米国カリフォルニア州での ZEV (Zero emission vehicle) 規制から、最近の自動車・電池産業まで、電気自動車に関する幅広い話題を提供した。

日産自動車株式会社の久村春芳氏は「電動化と知能化が先導するインテリジェントモビリティ新時代」について講演した。日産自動車が目指す電動化と知能化について解説した。東京工業大学の菅野了次教授は授賞式のため不都合となったので、ビデオにて「全固体電池の実用化に向けた研究最前線」についての講演を行なった。池松特任教授が講演をサポートした。全固体電池の研究の最前線とその将来性について議論した。

パネルディスカッションはインドから参加の Kumar 氏を含めて、国際協力の可能性を議論した。

